



(プロフィール) NPO法人エガリテ大手前 代表

1954年大阪府岸和田生まれ。府立大手前高校から一橋大学へ進学、学園祭実行委員となり大きな自信を付ける。住友商事入社、米国住商では青色LED事業、太陽光発電パネル事業、インターネット事業など時代の最先端事業に関わり成果を収める。

母校の同窓会で再会した旧友と「男女共同参画社会の創生」で共感し、'04年「NPO 法人エガリテ大手前」を起業。「家庭参画を促進するソフリエ」「社会参画を促進するIQNOH」など独自プログラムを開発し、全国自治体と協働して普及を図っている。「次世代環境育成ランキング」など行政チェックのユニークな機能もある。

●幼少～就職—
名門大手前高校に進学するも、落ちこぼれて....。
大学祭委員で自信復活「30代で企業経営」の夢を抱くまでに。

1954年大阪府岸和田市で、サラリーマンの父と大学研究者の母との間に3兄弟長男として生まれました。幼い頃から典型的な「かぎっ子」で、帰宅すると教科書を放り出して、山野を駆け回っていた小学生時代。中学では陸上部に入部、1年生で市内優勝して期待されましたが、その後は鳴かず飛ばず...。(笑)



高校は府下の秀才が集まる屈指の大阪府立大手前高校へ進学。ところが入学二日目には「頑張って落ちこぼれるか」「頑張らずに落ちこぼれるか」を悩み、早くも後者を選択してしまっただけです(苦笑)。落ちこぼれ仲間たちと、どこまで勉強しないかを競ったり、教科書は学校のロッカーに入れたまま一度も自宅にも持ち帰らない、試験勉強も絶対しないと宣言するようなダメダメ学生でした、...そして当然のように浪人(苦笑)。

一浪して一橋大学商学部へ入学。高校時代の劣等意識から同窓生のない大学に入りたいたいと思い、過去10年間一人も入学者がいなかった一橋大を選びました。親や旧友から離れ、初めての東京での一人暮らし、1年時から大学祭の運営委員になって、イベントの企画運営、大学当局や地元自治体職員との協力・調整などを担当、大人や社会と係わるのが私の性に合ったようです。当時でも年間予算1千万円を超える全国最大規模の大学祭で、2年時の創立100年祭では多額の損失を背負い、3年の大学祭でその繰越損を健全化するなど、学生にしては貴重でビッグな体験をして、ようやく青年らしい自信と希望を取り戻すことができました。

大学では経営史を専攻し、特に事業経営に興味を抱いていたので、就職先は商社を選択。この頃は安宅産業の倒産処理で伊藤忠が新卒採用を中止したり、第二次オイルショック直前の不況期でしたが、第一志望の関西系商社(住友商事)から内定をもらうことができました。当時の夢は、大きくて「30代で企業の経営をする」ことでした。